

波瀬周辺地区の景観まちづくり

※藍の縞模様は、伝統工芸品の「松阪木綿」柄です

No.2

令和5年3月 発行
松阪市建設部都市計画課



松阪市景観計画を進めています！

松阪市では美しく豊かな景観を、かけがえのない市民共通の資産として、誇りと愛着の持てる郷土づくりを実現するため、松阪市景観計画を進めています。

その中で、良好な景観の形成が特に必要な地区を重点地区として指定し、市民の皆様にもっともっと松阪市の景観を好きになってほしいとの想いで、まちなみの保全に取り組んでいます。

一方、現在運用している松阪市景観計画は、策定から10年以上が経過し、社会情勢の変化による課題も生じていることから、時代に即した改定作業を進めているところです。

新しい松阪市景観計画では、市を代表する歴史的景観を有する地区として「波瀬周辺地区」を重点地区（候補）として位置づけ、和歌山街道の宿場町・波瀬宿として栄え、往時を偲ぶまちなみが色濃く残る景観を、将来に渡り保全していきたいと考えています。

新しい松阪市景観計画は、令和5年4月から運用を予定しています。



波瀬の歴史的まちなみ



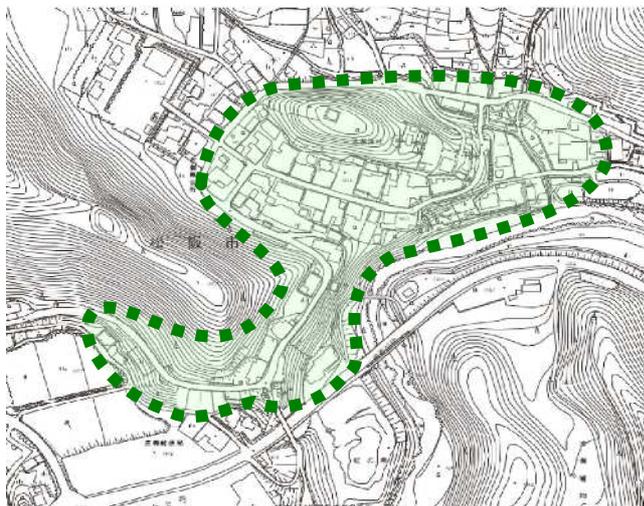
改定松阪市景観計画 記載内容（抜粋）

【波瀬周辺地区】良好な景観の形成に関する方針

本地区は、元和9年(1623)に徳川頼宣が参勤交代の帰りに和歌山街道を通り、以後暫く参勤交代路として利用され、本陣・脇本陣が置かれるなど、吉野から高見峠を越えて伊勢国に入った最初の宿場町として発展しました。

街道筋には、大火により焼失したものの江戸末期に再建され本陣の姿を伝える旧波瀬本陣や明治時代に整備された建物が主体となる旧脇本陣の建物も残り、宿場町として栄えた往時を偲ぶ歴史的まち並みが今もみられます。

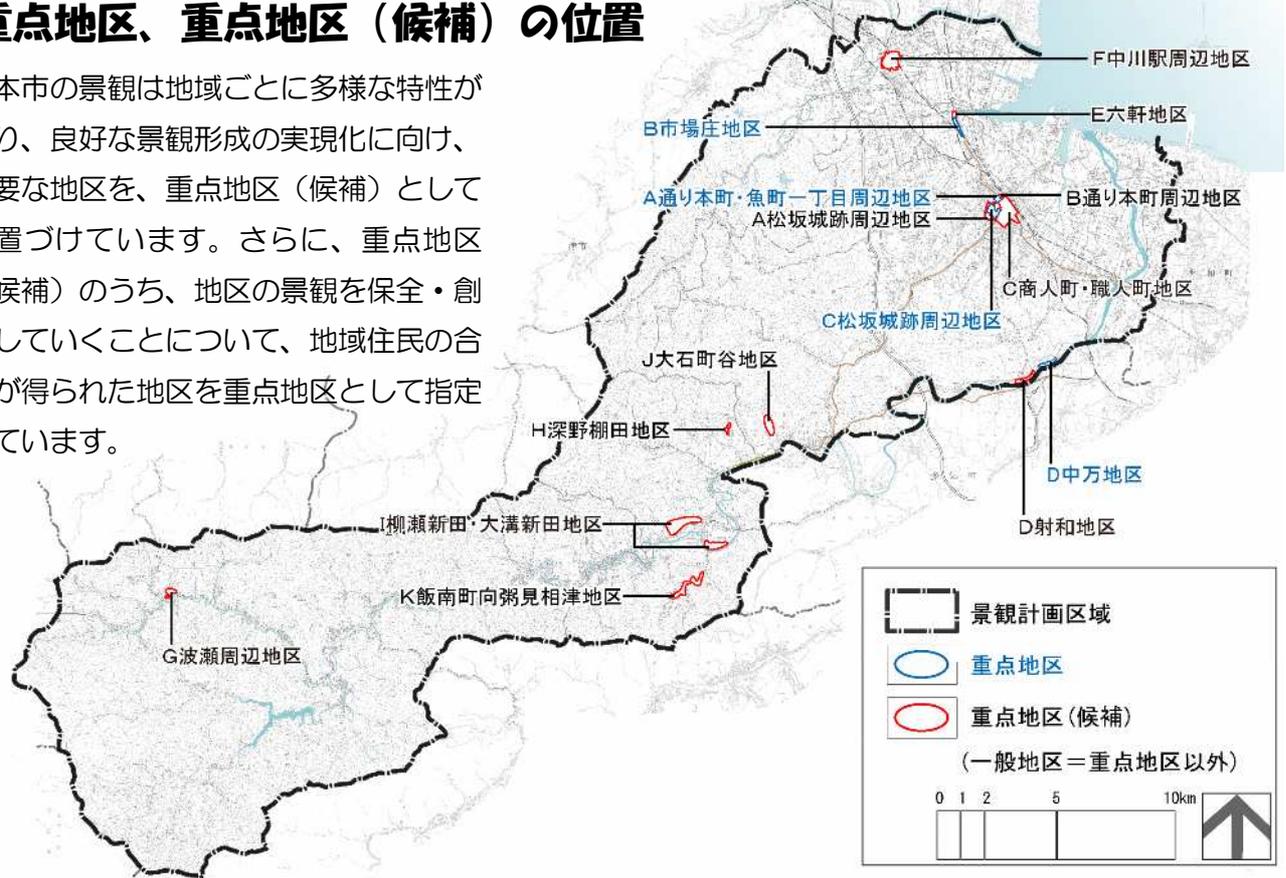
このため、和歌山街道の宿場町・波瀬宿として栄え、培われてきた歴史文化を色濃く残す地区として継承します。



重点地区（候補）のエリアと和歌山街道「波瀬宿」

重点地区、重点地区（候補）の位置

本市の景観は地域ごとに多様な特性があり、良好な景観形成の実現化に向け、重要な地区を、重点地区（候補）として位置づけています。さらに、重点地区（候補）のうち、地区の景観を保全・創出していくことについて、地域住民の合意が得られた地区を重点地区として指定しています。



松阪市では「景観交流会」を開催しています！

松阪市では、重点地区と重点地区候補地区で景観まちづくりに取り組む方を中心として、自分達のまちの景観をどのように次の世代へ継承していくか、他地区のまちなみを見学することや情報交換、意見交換を通じて、自分たちの活動方法のヒントになるようなことを得る機会や、景観まちづくり活動の輪が広がることで、連携しあえる仲間を増やして頂くことを目的として開催しています。

令和4年度は松坂城下町で開催！

令和4年度は、松坂城下町の殿町、本町、魚町において松阪ガイドボランティア友の会さんのご案内で、重点地区や候補地区の地域住民など24名の参加で、次のコースをまちなみ散策しました

今後、波瀬周辺地区においてもこのような機会を設けて、自分達の地域の景観をどのように次の世代へ継承していくかなど、景観まちづくりについて協議を進めながら、景観交流の場を広げていきたいと考えています。皆様からのご参加をお待ちしています。

